

2007年7月28日

シェルと空間構造に関する夏期セミナー2007

Final Announcement

2007年度の「シェルと空間構造に関する夏期セミナー」に45名の皆さんからのお申し込みをいただき、プログラム等の詳細については、若干の修正を経て、最終的に添付のように決まりました。発表および資料のご準備をよろしくお願いいたします。

記

開催期日：2007年8月1日（水）～8月4日（土）

開催場所：岐阜県ひるがの高原・カントリーロッジ「からまつ荘」

〒501-53 岐阜県郡上市高鷲町ひるがの高原 電話：05757-3-2515

http://www.tabiplan.co.jp/23_wes/GIF-05_karamatsu.htm

☞ ひるがの高原のテニスコート付きのカントリーロッジを私たちだけで貸し切りにしていただきます。テニスコートは4面、使用無料。こだわる方はラケットとボールを。お風呂は4～5人用、2人用がありますが、6kmほどのところに「ぼっかの湯」という温泉があるようです。団体送迎もあるとのこと。ロッジの裏の林にバーベキュー場があり、最終日の夜にはそちらで心ゆくまで楽しい時間を。ただ、参加者45名は正真正銘の最大収容数ですので、かなり手狭の状態となりますので、何かとご不便をお掛けすることになると思いますが、悪しからずご容赦ください。）

参加費：学生：20,000円、一般：25,000円（3泊4日）を目途にご用意下さい。

主 催：	金沢工業大学工学部建築学科	高山研究室
	法政大学工学部建築学科	吉田研究室
	東京大学生産技術研究所	川口研究室
	近畿大学工学部建築学科	藤井研究室
	名古屋大学環境学研究科	大森研究室（幹事）

■ アプローチ

- ・ 名古屋→美濃太田→北濃→高鷲北小学校前→会場
 - JR 特急ひだ（42分）＋長良川鉄道（130分）＋岐阜バス（30分）＋徒歩
- ・ 金沢→岐阜→美濃太田→北濃→高鷲北小学校前→会場
 - JR 特急しらさぎ（150分）＋JR 特急ひだ（21分）＋長良川鉄道（130分）＋岐阜バス（30分）＋徒歩
- ・ 東京→名古屋→美濃太田→北濃→高鷲北小学校前→会場
 - JR 新幹線のぞみ（104分）＋JR 特急ひだ（42分）＋長良川鉄道（130分）＋岐阜バス（30分）＋徒歩

2007年7月28日

セミナープログラム

	9:00	12:00	14:00	20:00			
8月1日 (水)			Session 1	Session 2	Session 3	夕食	
8月2日 (木)	Session 4	Session 5	昼食	Session 6	Session 7	Session 8	夕食
8月3日 (金)	SPECIAL SESSION (登山)						
8月4日 (土)	朝食後 解散						

【注意事項】

- **初日の昼食ができません！各自適当にすませて来てください。**
- 発表にはPCプロジェクターを使用します。PCおよびプロジェクターは、幹事の方で用意します。
- PCを持参されない研究室は、CD-ROMまたはUSBメモリでPower Pointファイルを持参して下さい。(フロッピーディスクは不可とします。)
- Macを使用する方はご自分のPCをご持参ください。
- **OHPプロジェクターは用意しませんのでご注意ください。**
- レジュメがある場合は**45部**(両面コピーが望ましい)用意してください。
- **発表時間は10分、質疑応答5分、計15分**です。
- 学生は**1人2回/日**以上必ず質問をして下さい。
- 3日目の登山では、滑りにくい靴、ナップサック、雨具(傘は使えません)等を用意し、手には荷物を持たないようにして下さい。

【宿泊について】

- 浴衣、タオル等は出ませんので、忘れずご持参下さい。(保険証もお忘れなく)
- 石鹸、シャンプーは一応備え付けられていますが、デリケートな方はご持参下さい。
- テニスコート4面(使用無料)ありますので、空き時間にどうぞ。

「シェルと空間構造に関する夏期セミナー2007」プログラム

8月1日(水)						
司会	持ち時間	所属	氏名	学年	発表タイトル	
Session 1 大森	14:00	14:15	金沢工大	中村 正彦	M2	逆転懸垂型シェルの力学性状に関する研究(開口寸法の違いによる影響)
	14:15	14:30	金沢工大	千葉 悠平	M1	4枚会わせHPシェルの力学的性状に関する研究(稜線角度とライズの変化による影響)
	14:30	14:45	金沢工大	今堀 賢一	M1	円弧アーチの力学性状に関する研究(荷重の条件による挙動の違い)
	14:45	15:00	金沢工大	辻 植也	B4	4枚会わせHPシェルの力学的性状に関する研究(稜線角度を持つHPシェルの支持条件による影響)
			金沢工大	米 今日子	B4	
	15:00	15:15	金沢工大	高山 誠		逆転懸垂型シェルの実験
休憩	15:15	15:30				
Session 2 古川	15:30	15:45	豊田高専	山田 耕司		耐力のばらつきを考慮した個別木造軸組建物の被害関数生成法
	15:45	16:00	名大	伊與田 智	M2	ガラスと木材を組み合わせた建築構造部材の開発
	16:00	16:15	名大	曾我 浩之	M2	ラグスクリューによる新型木質仕口接合部の開発に関する研究
	16:15	16:30	名大	大竹 秀則	M1	簡易な外付け補強を施した木造住宅の耐震性能評価に関する一考察
	16:30	16:45	広島大	松本 慎也		紫外線硬化型FRPによる木造住宅の耐震補強工法
休憩	16:45	17:00				
Session 3 山田	17:00	17:15	東大	大矢 俊治		鋼製下地在来工法のクリップ金具の水平繰り返し載荷実験
	17:15	17:30	東大	大塚 彰	M2	大規模集客施設の安全性に関する研究 その1ヒューマンバランスの基礎的調査
	17:30	17:45	東大	片山 慎一郎	M1	大規模集客施設の安全性に関する研究 その2能登半島地震被害調査報告
	17:45	18:00	名大	陳 商煜	D2	音波を用いた膜張力測定装置の開発 -実構造物への適用-
	18:00	18:15	鹿児島大	坂中 玲子	M1	立体裁断図解析と風荷重による膜構造物の動的応答解析
8月2日(木)						
Session 4 川口	9:00	9:15	名大	木村 俊明	M2	自由曲面シェル構造の形態創生に関する研究
	9:15	9:30	名大	田邊 昌基	M1	拡張ESO法による構造形態創生に関する研究
	9:30	9:45	東大	柯宛 伶	M2	一般化最急降下法と拘束条件付きの極小曲面について
	9:45	10:00	東大	三木 優彰	M1	一般逆行列の構造解析への種々の応用例
	10:00	10:15	近畿大	藤井 大地		位相最適化手法を用いた構造デザインとその応用
	10:15	10:30	近畿大	能井 宏弥	M2	変形法を用いたシェル構造の形状最適化
休憩	10:30	10:45				
Session 5 藤井	10:45	11:00	大同工大	萩原 伸幸		曲げモーメント分布に比例した構造物の形状修正
	11:00	11:15	名大	薫田 匡史	M1	大型望遠鏡を支持するトラス構造物の多目的最適設計
	11:15	11:30	名大	船橋 健吾	M2	空間骨組構造物における冗長性評価手法に関する研究
	11:30	11:45	名大	伊藤 智幸	M2	構造最適化法による鋼構造物の構造創生支援に関する研究
	11:45	12:00	有明高専	小野 聡子		れっつ とらい けいたいそうせい
昼食	12:00	13:00				
Session 6 松本	13:00	13:15	東大	吉中 進		上部構造に制振装置を配置した大スパン構造の応答制御
	13:15	13:30	東大	高濱 亮太	M2	新型免震装置の開発(実大住宅の振動台実験)
	13:30	13:45	大同工大	横井 宏章	M1	キラーパルスが建物に与える影響
	13:45	14:00	大同工大	都築 秀和	M2	原点指向型復元力特性を持つ振動系のエネルギー一周期特性曲線とエネルギー応答
	14:00	14:15	名大	松原 宏	D2	学校体育館の動的挙動の解明とその耐診断法への応用
	14:15	14:30	名大	古川 忠稔		超大型浮体構造物の動揺制御に関する研究
休憩	14:30	14:45				
Session 7 萩原	14:45	15:00	東京大	川口 健一		実大テンセグリティー構造における温度変化のモニタリング結果について
	15:00	15:15	東大	小澤 雄樹	D2	伝統的左官技術を利用した薄肉楕円体シェルの開発
	15:15	15:30	東大	川田 知典	M2	群論によるテンセグリティーの挙動の解析
	15:30	15:45	東大	鈴木 啓祐	M1	実用的展開アーチ構造の開発
	15:45	16:00	大同工大	古田 寛生	M2	テンション構造の形態解析と実験モデルの製作状況
	16:00	16:15	鹿児島大	佐伯 裕介	M1	骨組・ケーブル構造の幾何学的非線形解析に関する基礎的研究
休憩	16:15	16:30				
Session 8 高山	16:30	16:45	名大	蜂須賀 聖一	M1	既存建築構造物のライフサイクルデザイン
	16:45	17:00	名大	内藤 雅子	M2	環境外乱を考慮した建築構造物のライフサイクル評価
	17:00	17:15	近畿大	櫻谷 健太	M1	偽装を見抜くための構造計算書審査ツールの開発
	17:15	17:30	近畿大	真鍋 匡利	M1	粒子法を用いた大変形・破壊シミュレーション
	17:30	17:45	近畿大	本川 英治	B4	粒子法を用いた流体解析に関する基礎的研究
	17:45	18:00	名大	大森 博司		建築構造システムプロポーザの展望(その3)

シェルと空間構造に関する夏期セミナー2007 参加者名簿
2007.8.1(水)～8.4(土) : 岐阜県ひるがの高原「からまつ荘」

所属	氏名	学年	題目	1(水)ゼミ	2(木)ゼミ	3(金)ハイキング・バーベキュー	4(土)
豊田高専	山田 耕司		耐力のばらつきを考慮した個別木造軸組建物の被害関数生成法	○	○	○	○
金沢工大	高山 誠		逆転懸垂型シェルの実験	○	○	○	×
同	中村 正彦	M2	逆転懸垂型シェルの力学性状に関する研究(開口寸法の違いによる影響)	○	○	○	×
同	千葉 悠平	M1	4枚合わせHPシェルの力学的性状に関する研究(稜線角度とライズの変化による影響)	○	○	○	×
同	今堀 賢一	M1	円弧アーチの力学性状に関する研究(荷重の条件による挙動の違い)	○	○	○	×
同	辻 植也	B4	4枚合わせHPシェルの力学的性状に関する研究(稜線角度を持つHPシェルの支持条件による影響)	○	○	○	×
同	米 今日子	B4	同上	○	○	○	×
名古屋大(古川研)	古川 忠稔		超大型浮体構造の動揺制御に関する研究	○	○	×	×
同	伊與田 智	M2	ガラスと木材を組み合わせた建築構造部材の開発	○	○	×	×
同	曾我 浩之	M2	ラグスクリューによる新型木質仕口接合部の開発に関する研究	○	○	×	×
同	大竹 秀則	M2	簡易な外付け補強を施した木造住宅の耐震性能評価に関する一考察	○	○	×	×
東京大(川口研)	川口 健一		実大テンセグリティ構造における温度変化のモニタリング結果について	○	○	○	○
同	吉中 進		上部構造に制振装置を配置した大スパン構造の応答制	○	○	○	○
同	大矢 俊治		鋼製下地在来工法のクリップ金具の水平繰返し載荷実	○	○	○	○
同	小澤 雄樹	D2	ユニット型張力安定構造に関する研究	○	○	○	○
同	柯宛 侖	M2	一般化最急降下法と拘束条件付きの極小曲面について	○	○	○	○
同	大塚 綾	M2	大規模集客施設の安全性に関する研究 その1ヒューマン・トレランスの基礎的調査	○	○	○	○
同	川田 知典	M2	群論によるテンセグリティの挙動の解析	○	○	○	○
同	高濱 亮太	M2	新型免震装置の開発(実大住宅の振動台実験)	○	○	○	○
同	片山 慎一郎	M1	大規模集客施設の安全性に関する研究 その2能登半島地震被害調査報告	○	○	○	○
同	鈴木 啓祐	M1	実用的展開アーチ構造の開発	○	○	○	○
同	三木 優彰	M1	一般逆行列の構造解析への種々の応用例	○	○	○	○
広島大	松本 慎也		紫外線硬化型FRPによる木造住宅の耐震補強工法	○	○	○	○
近畿大(藤井研)	藤井 大地		位相最適化手法を用いた構造デザインとその応用	○	○	○	○
同	能井 宏弥	M2	変形法を用いたシェル構造の形状最適化	○	○	○	○
同	櫻谷 健太	M1	偽装を見抜くための構造計算書審査ツールの開発	○	○	○	○
同	真鍋 匡利	M1	粒子法を用いた大変形・破壊シミュレーション	○	○	○	○
同	本川 英治	B4	粒子法を用いた流体解析に関する基礎的研究	○	○	○	○
鹿児島大(本間研)	佐伯 裕介	M1	骨組・ケーブル構造の幾何学的非線形化遺跡に関する基礎的研究	○	○	○	○
同	坂中 玲子	M1	立体裁断図解析と風荷重による膜構造物の動的応答解	○	○	○	○
大同工大(萩原研)	萩原 伸幸		曲げモーメント分布に比例した構造物の形状修正	○	○	○	○
同	古田 寛生	M2	テンション構造の形態解析と実験モデルの製作状況	○	○	○	○
同	都築 秀和	M2	原点指向型復元力特性を持つ振動系のエネルギー 一周特性曲線とエネルギー応答	○	○	○	○
同	横井 宏章	M1	キラールスが建物に与える影響	○	○	○	○
有明工専(小野研)	小野 聡子		れつつ とらい けいたいそうせい	○	○	○	○
名古屋大(大森研)	大森博司		建築構造システムプロポーザの展望(その3)	○	○	○	○
同	陳 商煜	D2	音波を用いた膜張力測定装置の開発 -実構造物への適	○	○	○	○
同	松原 宏	D2	学校体育館の動的挙動の解明とその耐診断法への応用	○	○	○	○
同	伊藤智幸	M2	構造最適化法による鋼構造物の構造創生支援に関する	○	○	○	○
同	木村俊明	M2	自由曲面シェル構造の形態創生に関する研究	○	○	○	○
同	内藤雅子	M2	環境外乱を考慮した建築構造物のライフサイクル評価	○	○	○	○
同	船橋健吾	M2	空間骨組構造物における冗長性評価手法に関する研究	○	○	○	○
同	薫田匡史	M1	大型望遠鏡を支持するトラス構造物の多目的最適設計	○	○	○	○
同	田邊昌基	M1	拡張ESO法による構造形態創生に関する研究	○	○	○	○
同	蜂須賀聖力	M1	既存建築構造物のライフサイクルデザイン	○	○	○	○
参加人数	総	45名		45名	45名	41名	35名
	女性	6名					
	男性	39名					

2007年7月28日

■ 宿泊部屋割り

号室	畳数	定員	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	8+8	10	中村正彦	千葉悠平	伊與田智	曾我浩之	川田知典	高濱亮太	櫻谷健太	古田寛生	都築秀和	横井宏章
2	4.5	3	吉中 進	大矢俊治	小澤雄樹							
3	6	4	大竹秀則	片山慎一朗	鈴木啓祐	三木優彰						
5	8	5	陳 商煜	松原 宏	伊藤智幸	今堀賢一	辻 植也					
6	8	5	木村俊明	船橋健吾	薫田匡史	真鍋匡利	本川英治					
7	6	4	田邊昌基	蜂須賀聖力	佐伯裕介	能井宏弥						
8	4.5	2	小野聡子	内藤雅子								
9	6	4	米今日子	柯宛 伶	大塚 綾	坂中玲子						
10	8+6	8	高山 誠	大森博司	川口健一	古川忠稔	藤井大地	萩原伸幸	山田耕司	松本慎也		

以上